

＜祈禱会の御言葉から＞

村上定幸

【聞く】聞くということについて、思い起こしましょう。実に多くをわたし達は聞いて自分の知恵にしています。この言葉さえ、聞いて覚えたものです。今朝は佐野兄からお話を聞くことができます。初めてという兄姉も多いと思いますが、兄弟に臨まれた神の言葉を聞くということです。

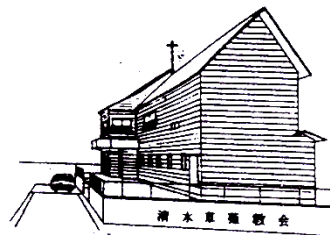
【聞いた話】ローマ書の10：14に“信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう”という言葉がありますが、この箇所を中心に祈禱会では聖書が開かれました。聖書は、聞くことをとても大切にしています。見た人の話を聞き、それを伝え、“確かにその通りだ”と思うことを信じているのです。しかしこの聖書の記録は、結構昔に、その時代を生きた人によって、その人の言葉で書かれたものです。また、日本語で本来書かれたものでもありません。私たちを取り巻く情報の中で、そうこうしているうちに、本当とは違ってきてしまった、なんてことは多いと思います。また表現も異なって来るのは普通でしょう。しかし、聖霊によって求める力が教会に与えられているのです。あつたことを聞き続け、伝え続け、研究し続けているということです。

【信仰】信仰を持った人は皆、聞いて信じています。何を信じているかという、救いあるいは福音ということでしょう。伝道者パウロは、このことが曖昧になりそうな教会に、こう書き送っています。“もしキリストがよみがえらなかつたら、わたしたちの宣教はむなしく、あなたがたの信仰もまたむなしい（Iコリント15：14）”というのです。そしてこのことを、何となくは知っていることですが、パウロは愚かだと言っています。IIコリント11：16に“もう一度言います。だれもわたしを愚か者と思わないでほしい。しかし、もしあなたがたがそう思うなら、わたしを愚か者と見なすがよい。そうすれば、わたしも少しは誇ることができる”とあります。アブラハムもノアも、預言者たちも、聞いて出発し、また再出発しています。エマオへの道でクレオパたちは“二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった（ルカ24：16）”とあるように、聞くことから始めています。そして再出発しています。この経験が“道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか（ルカ24：32）”という教会の告白に結び付いていることが分かるのです。パウロは福音あるいは救いを“復活”のことだとして、教会に説明します。このことを聞き続けられない時に、教会は別のものを中心にしてしまいます。私たちも“あの時、聞いたのです”。でなければ、信じ呼び求めることは出来ないのです。

【教会の信仰】教会は聞き続ける群れです。神様の言葉を聞き続けているのです。今朝の礼拝を大切にしましょう。

週報

2011年 8月 7日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042